

粒子モルフォロジー制御による
合成・評価・材料開発の必要性

「粒子モルフォロジー」定義
粒子の外形(球状や板状、粒径分布など)
粒子内部の構造(中空・多孔など)
粒子の表面性状(付着力や静電気など)

民間企業、公設試や国立機関、大学が
一体となって研究開発に取り組む
プロジェクトの有効性

成功例・進行状況の紹介による
開発プロジェクトの有効性PR
半導体封止材料と非酸化物・球状粉体(高尾)
蛍光体と酸化亜鉛型・球状粉体(井上)
化粧品と板状粒子 複合粒子 顆粒体(浅井)
医薬品・トナー等と粒子の表面性状評価(島田)

粒子モルフォロジーの
方法論としての有効性

粉体・粒子の状態が反映する材料系における、高い影響度

開発プロジェクト実施による
独自性や信頼性不足の解決

各機関がバラバラで非効率な現状

基礎的な水準は高い各機関の研究レベル

開発プロジェクト実施の緊急性

各材料・評価標準分野でのニーズ・ウォンツの紹介